

粒揃いの強烈な個性が顔を揃えて、今年も開催！ Alice Festival 2005



アリスフェスティバル・ディレクター、西村博子氏に聞く。

「第9回アジア小劇場演劇交流ネットワーク」と副題がついている、タイニイアリスの演劇祭 Alice Festival。8月11日から来年2月19日まで、15劇団が舞台を彩る

タイニイアリスを主宰、Alice Festivalの企画者でもある、西村博子さんに今年の見どころを伺う。まず、今の演劇の流れを伺うと「90年代はセリフを主にして、現実生活を映し出す、「静かな演劇」が主流でした。それが世紀も変わり、変なものが出てきています。見た目が凄いか、毒気があって刺激的とか、美少年がいるとか、その舞台の差し出し方、手法を競ってますよね。私自身、現実なんてうんざり、見たくないですね。演劇の魅力とは何か、再考する時代がまた来たんじゃないでしょうか。22年前、1983年から始まった「Alice Festival」に集結する劇団を、自身の目で選んできた西村さんは「今年も、今までになく楽しいものが多い」と顔をほころばす。

西村さんは名古屋出身ということもあり、タイニイアリスでは演劇の中央集権が大きい。「東京中心・東京だけの演劇祭にならないよう、なるべく他都市の劇団に来てもらいたいのだと言う。今回も大阪、名古屋の元氣な劇団が参加する。



仏団観音開き

「大阪の「仏団観音開き」は、醜女の恨みツラミみたいよ。前回面白かったと私の周りで大評判でした。今までは男が女を描き、女を批評してきましたからね。今度は女の番です。名古屋の「演劇人集団☆河童塾」

はセリフ劇で、その底に、現実に対してノンと言っているところが「静かな劇」とは違いますね。

もちろん、東京の劇団も負けてはいない。「マンガを劇化するのではなく、舞台をマンガそのものにしようとしているのが「野鳩」。場面展開もマンガのコマ割りみたいです。人気沸騰中ですね。『劇団アランサムセ』は、17年前に結成された在日朝鮮人の劇団で、若い世代の在日たちへエールを贈り続けている。全編日本語で上演するそうです。『Afro13』は、ゲームシナリオライターとしても知られる佐々木智広さんが作・演出を手がける集団で、昨年はエジンバラ演劇祭でも喝采を博したとか。凱旋公演ですね。

これだけ聞いても、それぞれの劇団の個性に圧倒されてしまう。しかしこれらに加えて海外劇団も「Alice Festival」の大きなウリなのだ。

「今年は韓国友情年ですが、ソウルではなく釜山から「釜山演劇製作所ドゥンニョック」を迎えます。中国は、国立の演劇大学としては中国に二つしかない「上海戯劇学院」から。劇作家の銭さんは女性。どちらも身体表現で魅了してくれます」

これだけお腹をいっぱいにしては、まだ早い。まだまだメニューは続く。

「台北、香港、大阪の3都市を結んだプロジェクト「3-City-Dante Project」は、ダンテの「神曲」。3都市が天国、煉獄、地獄をそれぞれ担当、競います。大阪の佐藤さんは、作曲するとそれが即台本になるという変わった創り手。社会にミスフィットな生き方がその拍子で表現されます。そして！今回はイラク・バグダッドから招いた劇作家であり俳優でもある2人のイケメン主演の、ドラマ・リーディングをします！」

舌好調の西村さんに「イケメン同好会」(そいうのの誘いを受けてしまった私は



イラク人作家

小声で聞いてみた。
「あの……演劇素人はどれから見たいいでしょうか？」
間髪入れず西村さんは、「もちろんフェスティバルの最初を飾る、『ゴキブリコンビナート』から！きっと1日からうろこ落ちて、あらゆる価値観が変えられていきます！」
ありがとうございます！百聞は一見にしかず、これから半年間、タイニイアリスから目も足も離せない!? 読者のアナタも、タイニイアリスで会いましょう。
(聞き手・CUTIN 美術担当/藤田千彩)

Alice Festival 2005 8月11日～2月19日(2006)

- ◆ 8月11日～14日 ゴキブリコンビナート(東京)
「キミのオリモノはレモンの匂い」
- ◆ 8月16日～18日 東京黙劇ユニットKANIKAMA(東京)
「Collection vol.2」
- ◆ 8月20日～21日 演劇人集団☆河童塾(名古屋)
「ディーブ フォレスト」
- ◆ 9月12日～14日 仏団観音びらき(大阪)
「女殺駄目男地獄」
- ◆ 9月16日～19日 劇団アランサムセ(東京)
「アベ博士の心電図」
- ◆ 9月22日～25日 Afro13(東京+大阪)
「Death of a Samurai」
- ◆ 10月14日～16日 踊る演劇小ネタ集団アトリエサクス(大阪)
「ペーターランド2」
- ◆ 11月1日～2日、12月20日～21日 無夢樓△(台北)
「森視」「悪戯」
- ◆ 11月4日～6日 E.G.WORLD 団(東京)
「強いものイジメ」
- ◆ 11月8日～10日 釜山演劇製作所ドゥンニョック(釜山)
「愛、初めてのイメージ」
- ◆ 11月12日～13日 上海戯劇学院(上海)
「三生石」
- ◆ 11月23日～24日 3-City-Dante Project(台北+香港+大阪)
「Dante 333」
- ◆ 2006年2月3日～7日 野鳩(東京)
「野鳩 約1年ぶりの本公演(仮)」
- ◆ 2006年2月13日～15日 タイニイアリスProject(バグダッド+東京)
「イラクNow」
- ◆ 2006年2月17日～19日 WANDERING PARTY(京都)
「21世紀旗手」

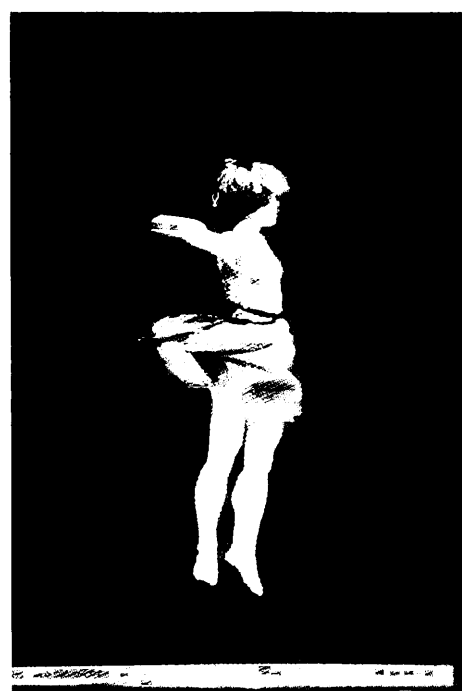
IN TOWN からだの気配

●7月13日<ダンスが見たい! international dance collubration>麻布ディーブラッツ 韓国のダンスチーム、スム・ムーブメントと、実験的なアクションで気を吐く日本のMegalo Theaterが休憩をはさんでそれぞれ上演。前半のMegalo Theaterの「メガロポリス麻布」は十数名と大人数の出演者が、街に出かけて、発見したこと、思ったこと、浮浪者に会ったこと、電車の中の光景etc.を、各々、お客にむけて口頭でレポートする。それが始まりだ。やがて、一人が他の出演者たちの見せ物になっていたりと、誰かが号令をかけて全員を動かしていたりと、集団の動態が生き物のように変わって行く。ごく普通の若い出演者たちが、何かを演じるのでも、過剰な情念に身をまかせるのではなく、普段の自分のままでお客の前で何かをする。まさにそれ、パフォーマンスのリアリティのあり方。3人ずつ手をつないでスケーターワルツを歌う、意味にならない大音声のユニゾンと――、解体された舞台表現を積み重ねて、次第に劇的效果へと持っていく。その先



に何が見えてくるのか興味津々だ。次回も注目したい。メガロシアター 8月19日～8月21日「メガロポリスウキョウC」麻布DIE PRATZE シリーズ最終章!

後半のスム・ムーブメントの「空気の夢」。3人の女性ダンサーが風のように素早く、柔らかく、繊細に動きまわり、残像とフォルムを、そして空間の陰影を生み出す。感情表現ではなく身体の動きそのものの表現に焦点を定めた美しいダンス モダンバレエと言った方が近いのか。バレエの基礎は入ってるが、バレエのような筋力誇示のショーとは違う清楚な躍動感、やはりアジア的。と、このダンサー達が不思議なまでに性的な視線から自由であることに気づく。性的な視線とは、ダンサーの体を、性的な遊具あるいは性的商品に変換して行く視線、TVや雑誌で商品化された女の体を見ることに慣れきった私たち現代人の視線だ。そしてこの視線とどう対峙するのかという問題は、ピナ・バウシュから黒沢美香まで、優れた表現者が等しく突き当たり、突き破ってきた壁である。韓国から来たスム・ムーブメントは、その性的な視線の攻撃から自由であるように見えたのだ。大げさに言えば、これまでに見たことのない自由だ。もちろん体を晒すことには優れて自覚的な現代舞踊なのだ。――。前半と後半で共通に見える問題は、表現者の身体意識とは何か、ということか。(井上)



スム・ムーブメント

特権性を持たぬ日常的な身体と向き合い、ダンスとは何かを問う時である。

トヨタ コレオグラフィー アワード 2005
7月9日、10日 世田谷パブリックシアター

四年目のトヨタアワードは終始迷走した。チケット不足解消のため会場がシアター・トラムから世田谷パブリックシアターへと移され、賞金も倍増と、規模は拡大したが、応募は逆に急減した(例年の応募総数は200前後、今年は161)。出場者は、9日=岩淵多喜子(Dance Theatre LUDENS)、黒沢美香、鈴木ユキオ(金魚)、隅地菜歩(ダンスユニット・セノグラフィカ)、10日=新鋪美佳(ほうほう堂)、岡田智代、岡田利規(チェルフィッシュ)、宇都宮忍・成田美由紀・合田緑・高橋砂織・得居幸・三好絵美(yummydance)。筆者は出場者を選ぶ選考委員の一人を務めたことを予め断っておくが、劇場とダンスのスケールのギャップは大きく、残念ながら客席の盛り上がりには欠ける結果になってしまった。審査員は「次代を担う振付家賞」に隅地を選び、観客の投票による「オーディエンス賞」は鈴木(9日)、新鋪(10日)に贈られた。決して強いインパクトを残したわけではない隅地の受賞は意外だったが、審査委員長は今年も選評を述べなかった。

劇場が大きすぎることは初めから懸念されたことだ。日本のダンス、とりわけその最前線は小スペースから生まれているのが実状で、新鋪、鈴木はSTスポット、岡田智代の作品は神楽坂die pratz、その他ほとんどのノミネート作品が小スペースで初演されている。しかしこのことはダンス自体の価値を損なうものではない。

岡田利規は、演劇論の文脈ではあるが、「日常の身体」の「過剰さ」について語っている(『ユリイカ』2005年7月号)。いわゆる演劇的演技としての様々な身振りや発声の様式をまとった身体がしばしば標榜す

る「過剰さ」以前に、そもそも「日常の身体が抱えている過剰さで、僕にとっては十分なので、それ以上の過剰さをわざわざ作り上げる必要を感じない。日常の身体のもつ過剰さを提示することにこそ岡田の関心はある。この主張は、現在の日本のダンスにもよく当てはまるだろう。バレエが専門の技巧に秀でたスターのダンスだとすれば、舞踏はいわば身体に不具性を孕んだ人間ならざる何か(=モンスター)のダンスだった。然るにこうしたスペクタクルを下支えしていた大文字の歴史が失効した現在、日本のダンスは何ら「特権的」でもない平凡な「日常の身体」からダンスを思考することになる。

これまでも、日常の身振りを振付に取り入れれたり(井手茂太、山田うん)、日常と非日常との境界を崩す(伊藤千枝、伊藤キム)ような発想はあった。しかしこれらはまだ意匠の域を出ず、「ダンス」というジャンルの自明性を疑ってはいない。今や「日常の身体」の小さなダンスが問うのは、そもそもダンスなる出来事はいかんして生まれるか、我々にとってダンスとは何か、なのだ。例えば新鋪の「るるざざ」は、余計な力を抜いたニュートラルな身体が動きへの衝動を獲得する瞬間を掬い上げる。二人のダンサーそれぞれの動きの起点が互いの動きによって動機付けられることで、動きの受け渡しの瞬間は一触即発のライブ感に満ち、そしてその瞬間の一言が驚くほど豊かな色彩の幅を見せるのである。あるいは黒沢のソロも、身体能力や体型に依存しないダンス的運動をあらぬ所から引き出してくる。一見何でもない歩行や、ゴソゴソと動く後ずさり、さりげない目線の動きさえもが、観客との心理的な駆け引きの道具となる。岡田智代の「ルビィ」は、動きの抑圧と解放のバランスの微細な揺れを主題化する。足を固定したまま音楽に身を任せたり、椅子に手をかけてゆっくりと均質に歩行



ほうほう堂

することで可視化されるのは、パナールな身体の内側に渦巻く粗暴なまでのエネルギーに他ならない。

こうした実践は確かにダンスへのラディカル

な批評性を含んでいる。しかし今回あえて大劇場を選び、また欧米からも審査員を招くなど普遍主義をあからさまにするトヨタアワードで、作品本来のラディカルさを発揮し得た例は少なかった。新鋪の作品は大空間ゆえの運動量を強いられ、大味で月並みなデュオ作品になった。岡田智代は作品自体を、視覚性の強いセノグラフィックによって初演版とは異質なものに作り変えた。グローバル化した市場の論理で、作品のラディカルなディテールはいとも簡単に見えにくくなってしまふ。単なるスペクタクルの水準で安易な判断を下される危険にも無防備というしかない。

この圧倒的なスペクタクルの優位に、辛うじてアイロニカルな抵抗を試みたのが岡田利規と黒沢美香だった。大時代なマーラーの交響曲を背景に「日常の身体」の卑小さを浮き立たせた岡田の「クーラー」、歌謡曲や舞台幕を駆使して劇場の大装束を嗤ってみせた黒沢の「馬をさき」は、パロディによってスペクタクルの直接的な作用を停止させ、観客の注意を繊細極まりない身体言語のディテールへと誘導することに成功していたように思う。いかなる言語も個人に帰属するものではなく、まずは他者と共有しなければ機能しない以上、ローカルな実践を外部に開くためのメタ言語的な戦略性こそ今の日本のダンスに必要なものなのかも知れない。

武藤大祐(美学/ダンス批評)

<http://members.jcom.home.ne.jp/d-muto>

ダンスがみたい! 7 矢内原美邦、小浜正寛 + Luke GEORGE で目指すダンスのバラエティ

die pratz dance festival ダンスがみたい! 7
—国際ナショナル ダンス コラボレーション—
2005. 7.12 ~ 8. 31

海外のダンサーと日本人による<共同制作><鏡作>シリーズ

ボクロール(オーストラリア/日本) 8月25日~28日(25日アフタートーク) @神楽坂die pratz [chocolate] 振付・出演/矢内原美邦 出演/佐川智香 『ボクデスの「メガネデス!」』作・演出・出演/小浜正寛 映像/高橋啓祐 ★ゲスト出演=Luke George(オーストラリア) 問=bokurooll2005@yahoo.co.jp

ニプロール主宰の振付家・矢内原美邦とボクデス名義で活動する俳優・小浜正寛が立ち上げたコラボレーション企画「ボクロール」。矢内原美邦は、ダンサー・佐川智香と、昨年夏の「吾妻橋ダンスクロッシング」にて発表し好評を博した「chocolate」の、更なるバージョンアップに挑む。一方、ボクデスは、ニプロール映像ディレクター・高橋啓祐と初の本格的共同制作で、新たな不思議エンゲキに臨む。また、プレミアム・ゲストとしてオーストラリアからLuke Georgeを迎える魅惑のダンス・バラエティ!

転がる僕らをつかまえて! 銀紙開けると中は黒!

Q “ボクロール”は、Off Nibrollとボクデスの合同企画ですが、そもそもOff Nibrollを始めた経緯を教えてください。

矢内原 小さいスペースや展示中心のものをしたくて始めました。ニプロールだとスペースが大きくなって、出来ないこともあるからです。実際、第一弾「publ-

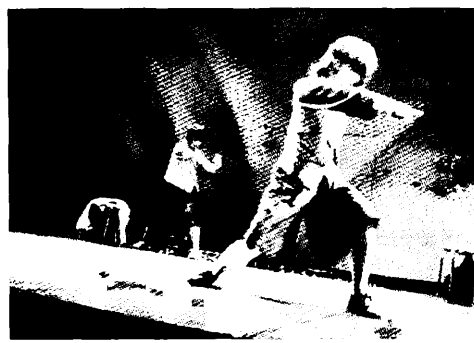
ic=un+public」を、5月にBankArt1929ホールで上演したんですけど、これまでのニプロールでやってきた、舞台があって一度に300人くらいの人に観てもらおうという状況と、ギャラリ空間ということでの一体感や、毎回1mや2mといった近くにいるお客さんと触れ合いながら、ものを創っていく状況というのは、全然違いました。Q さて、今回の「chocolate」ですが、どのような意味合いから名づけられたんですか?

矢内原 えーと、なんとなくです。(笑) なんとなくなんですけど、誰もが、chocolateを食べてた時期を経て、今があるんじゃないですかね?(笑) あと、「public=un+public」にも連なるテーマなんですけど、銀紙を開けると中が黒かったりとか。ひとつの服の内側に面している部分と、外側に面している部分は違うと思っていて、それは自分が持っている両方のもので、そこからパブリック・スペースとプライベート・スペースという発想が生まれました。Q さて、この内側の部分だけをやると思うと「chocolate」になるんです。また、このデュオ作品は、昨年の「吾妻橋ダンスクロッシング」で発表したんですけど、たくさんの人たちを使って、振付・作品を創っていく作業と同時に、やりなれて人と少人数で物事を考えていくということは、私にとって非常に重要なことなんです。一緒に舞台上に立ち、1対1のコミュニケーションの中、意識の通じ合いや、どうやって作品を育てていくかという対コミュニケーションで生まれてくるものは、凄く大切なことなので、やろうと思ったんです。

Q 一方、「ボクデスの「メガネデス!」」は、メガネDEATHということなんですか?

小浜 ひとつだけじゃないです。ボクデスのネーミングと同じで、肯定と否定の自己矛盾を内包しています。や

COLLECT



chocolate 撮影/横田徹

っぱり、今の世界を見渡すと、ひとつの方向性だけじゃ表せないと思うんです。ウソとホント、社会性と趣味性、善意と悪意、修行と遊び、静溢とノイズ、それら別々の方向のものが交ぜになって、存在していると思うんです。あと、近視と遠視。で、近視の人も遠視の人も、メガネを外して寝ますよね。それでも、夢を「見る」ことは出来る。そんなことをモチーフに作品を創ってます。Q オーストラリアから来日するルーク・ジョージ氏は、どのように関わらるんですか?

矢内原 ルークは、チャンキームーブというカンパニーのダンサーで、タスマニアの自分のカンパニーでは、振付や演出をしています。今回は、彼と一緒に短い作品を創ろうと思っていて、それには石立大介君や佐川智香さんにも出演してもらっています。あと、彼はセットデザインもやるので、いろんなことに関わってくれたらいいな、って思ってます。

Q 最後にお客さんに一言。

矢内原&小浜 見に来てねー。

Alice Festival 2005開幕! 8月のプログラムから

アジア各都市をネットワークで繋ぐ新宿の小劇場
TINY ALICE より最新ニュース

毎年アジア各都市から注目の劇団が参加し、おこなわれるAlice festival。今年もコメディ、ストレートプレイ、マイム、リーディングと手法も様々な15のプログラムがタイニアリスの舞台をにぎわしてくれます。フェスティバルの開幕をかざる8月の3劇団をご紹介します。お見逃しのないように!

**勝者必殺の理を現す、
この毒花を見よ。
新しい和製ホラーミュージカルの誕生**

ゴキブリコンビナート(東京)
「君のオリモノはレモンの匂い」
◎8月11日(木)～8月14日(日)

業病と貧困に喘ぐ家族が、狂気の化学実験の犠牲となって、裸身にヌラヌラとした体液みたいなものを滴らせて溶けて行く。可哀相な営業マンがパンツも剥がされプロレスも顔負けとばかりにボカボカに痛めつけられる。いったい何の警告か? 社会へのあまりにも深い怒りか? 高度な音楽表現を持った集団でもあり、とことん悲惨な地獄模様か、はじめはディズニー映画のパロディのような「カワイイ」旋律の歌で語られ、毒のない?

ギャグで笑わせてくれたりする。が、それもやがてはこの集団特有の見苦しいリアリズムによって、とことん露悪的でヒステリックな表現に突っこんでいく。あるとき、あまりの汚さとか、見苦しさがギャグに転換して、また笑えたりする。今回は完全ミュージカル化をめざし、ほ

はすべての台詞を歌詞に仕立てるといふ。会場はオールスタンディング形式(椅子なし)。あなたはこの毒花から目を背けないでいられるか。それとも途中で逃げるか。新たな和製ホラーミュージカルの誕生だ。
作・演出 / Dr.エクアドル

**大爆笑、スリル満点の正統派マイム
コメディ。不思議な二人が紡ぎ出す
大都市の一夜の夢**

東京黙劇ユニットKANIKAMA(東京)
「collection vol.2」
◎8月16日(火)～8月18日(木)

パントマイマー小島屋万助は、ツアーやフェスティバルで多くの人々と出会い、交流しながら芸を磨いてきた人だ。1995～1999年には、アジア各国のマイマーが日本に集う「アジア・マイム・フェスティバル」をみずから手で開催。韓国、タイなどのマイムフェスティバルでは重要な常連となっている。また、ここ4～5年毎年おこなっているバンコク公演では、いつも満席の劇場に大爆笑の渦が巻き起こる。当地ではかなりの人気者なのだ。パントマイマー本多愛也は、マイムに加えて歌や楽器もこなすエンターテイナーで、今年は「月猫えほん音楽界」(7月/青山円形劇場)などにも出演。秋には韓国公演も予定。小島屋と本多が共演するユニットKANIKAMAは、長いつきあいの二人ならではの息のあったステージがウリ。大都市の片隅の不思議な出会い、不条



理な恐怖、少し甘いファンタジーなどを綴る。笑いと哀愁の作品集だ。演出/吉澤耕一

**青木ヶ原樹海で彼女は何を聞いたか、
誰を見たか。自然と人間の関わりを
深く問う、期待の意欲作**

演劇人集団☆河童塾(名古屋)
「ディープ・フォレスト」
◎8月20日(土)～8月21日(日)

2004年3月、4～5日前から行方不明になっていた22歳の女性がずぶ濡れで静岡県警に保護された。彼女は青木ヶ原樹海を彷徨っていたらしい。最初から誘拐の可能性も取り沙汰されたが、生還した彼女の「連れ去られたのではなく、ずっと一人でいた…」という言葉もあり、ひとまず犯罪事件ではないと断定された。多くの謎を残したこの出来事をモチーフに、彼女がさ迷ったであろう樹海での数日間を加藤真人が描く。若むし、清廉な水が滴る奥深い森には、不思議な人々が潜み、迷い人がうずくまり、そして、あれは樹々の声であったのか。自然との関わりを通して、生命(いのち)の美しさ、人が生きる意味が見えて来る。河童塾は劇作家の加藤真人が主宰する演劇集団。今回は青木ヶ原樹海というこの作家にはぴったりの構想の舞台を得て、いよいよ冴える筆致で、自然と人間の関係を問う。

作・演出/加藤真人



豊かな地域文化創造のために。 読み聞かせ実践講座「心に響くドラマリーディング」

芸術文化を支援、発信するNPO
アートネットワーク・ジャパンより
MONTHLY LETTER Vol.21

読み聞かせ実践講座
「心に響くドラマリーディング」発表会
◎7月23日 にしすがも創造舎

去る6月11日から7月24日にかけての毎週土曜日、にしすがも創造舎にて、読み聞かせ実践講座「心に響くドラマリーディング」が行われた。このプログラムは「アートネットワークジャパン」、「芸術家と子どもたち」の両NPOが豊島区や関連団体とともに組織する「としま文化創造プロジェクト実行委員会」が展開する事業のひとつで、豊島区内のさまざまな施設で読み聞かせの活動が出来る人材の育成を目的とした教育講座である。

講座では演出家の倉迫康史氏(Ort.d.d)、俳優の山田宏平(山の手事情社)、三橋麻子(Ort.d.d)の両氏を講師にむかえ、毎週絵本や手紙、小説等、それぞれテキストの特徴にあった読み聞かせのレクチャーが行われた。声を出すためのストレッチ、準備運動にはじまり、講師によるデモンストレーション、参加者の個性にあわせた個別指導、実際に参加者の前で読み聞かせを行う実践練習等とおして、参加者はテキストの内容をより深く理解し、それを聞かせる相手に対していかに伝えるかを学んだ。(各レクチャーについては、にしすがも創造舎HP…<http://www.anj.or.jp/anj/sozoshaha/archives/yomikikase.html>に詳細なレポートと当日の資料あり)

そして、7月23日には、全8回の講座の締めくくりとして参加者全員がひとりづつ他の参加者や講師達の前立ち、読み聞かせを行う発表会が催された。

発表会は18人の参加者がそれぞれ5分間の時間を使って、自分が読みたいテキストを読み聞かせていく。選ばれたテキストはミステリーなどの小説、エッセイ、絵本と様々であり、その選択にも個性があらわれていた。大勢の人前での発表ということもあり、開始直前迄は緊張を口にする参加者も見られたが、いざ始まるとそれぞれ落ち着いた様子でテキストを読み聞かせていた。聞く側の参加者も読み手の話に熱心に耳を傾け、時折話の内容に笑いが起こるなど、リラックスした空気の中発表は進んでいったが、これは講師をはじめ、参加者どうしが打ち解けた雰囲気の中で、レクチャーを重ねてきた結果といえるだろう。聞き手が同じレクチャーを体験してきた仲間ということもあり、ただテキストを「読む」だけでなく、相手に「聞かせよう」とする意志が強く感じられたのも印象的であった。参加者の中にはテキストの内容に関連した小道具を前に置いて、発表をおこなったり、絵本を開き手に見せながら読むなど、自分なりのやり方で読み聞かせを「演出」する者もあり、発表会をより魅力的で、楽しいものにしていった。

中には俳優さながらの

堂々とした読み聞かせをおこなう参加者もあり、驚かされる場面もあった。参加者それぞれの個性をいかした発表は、第三者からみても面白いものであったし、声の表情とリズム、最小限の身振りのみで全てを表現する「読み聞かせ」の奥の深さを発見させられるものでもあった。また、少ないながらも男性の参加者もあり、女性とはまた違った魅力のある発表をおこなっていたことも付け加えておきたい。

学校の週休2日制などによって、読み聞かせの会は、学校や図書館等で盛んに催されるようになったという。読み聞かせの出来る人材の需要はこれからますます増えていくに違いない。この講座の参加者すべてが、すぐに文化ボランティアとして活動していくという訳ではないが、そのための素地はこの講座によって得られたのではないかと感じた。なお、この読み聞かせ講座は豊島区在住・在勤・在学の方を対象に、次回は10月末から12月に開催される予定。(CUT IN)

↓左、中…練習風景 右…発表の様子



日本の舞踏集団とオーストリアの前衛集団が カフカを国際共同製作



新しい演劇を発信する神楽坂と麻布の小劇場 DIE PRATZE より最新ニュース

die pratze dance festival ダンスがみたい!7-インターナショナル ダンス コラボレーション
金沢舞踏館/Theater ASOU(オーストリア/日本) カフカ「変身」
8/30(火) 19:30 アフタートーク有 8/31(水) 19:30 @麻布die pratze
問=076-231-3863(金沢舞踏館) ☆出演=山本萌 白神ケイ Uschi Litschauer Monika
Zohrer Christian Heuegger Gernot Rieger Klaus Seewald

本公演は金沢舞踏館とシアター・アソウの二つのグループによる舞踏の国際共同製作作品。2000年には、第1回目の舞踏プロジェクト「DANSHAKU/男爵」(作・演出/山本萌)をオーストリア、グラーツ市にて発表して好評を得る。2回目となる今回は、カフカの「変身」に挑戦。ドイツ語文化圏のシアター・アソウの身体性と金沢舞踏館の舞踏とが、カフカ「変身」をテキストに、どのように融合し、進化するのは是非ご覧ください。(本公演は、2005日欧市民交流年のイベント)

金沢舞踏館 山本萌インタビュー

●いちどTheaterASOU(シアターアソウ)と共同製作されたそうですが、前回はどのようにして作られたのですか?
山本一はい、2000年にDANSHAKU(男爵)を制作いたしました。2週間という短い期間でASOUとやるので、いままでもやったことのある作品を使ってリメイクいたしました。初演は3人でやった作品ですが、それをオーストリアでは9人の作品に仕上げました。戦場の疲れた兵士の座り込ん

だ土地からたくましい生命力が生れてくるという作品です。荒れ果てたどんな土地からもジャガイモ(男爵)の芽が出てくるという生命力がテーマでした。ASOUは舞踏手に徹し、公演も夏の城址公園の野外ステージで一般観光客も観覧して大変好評でした。

●今回はカフカの「変身」からですが、どういふききつてカフカになったのでしょうか?

山本一ASOUと二回目として新作をやろうということになったのですが、オーストリアと日本の文化交流として何を選んだらよいか、カフカという名はすぐ出たのですがはたして今の若い世代が「変身」を読んでいるか疑問でした。しかし、図書館に行けばカフカの全集が置いてあったり、「海辺のカフカ」という本がでていたり、カフカ自体は知られているので日本でこの舞台も可能だと思いうになりました。それと、金沢でハイナーミュラーの企画に関わった事も大きかったです。韓国の劇団チャンパーの「ハムレットマシーン」はとても面白

く、台詞がないのに言葉を感じさせてくれました。小説の「変身」をテキストとして山本萌の変身を作り上げても良いのではないかと考えたんです。どのように近づこうとしたか舞台をご覧になると解るのではないかと思います。

●いままでの舞台と違う点はありますか?

山本一そうですね、今回の作品づくりにあたって、ASOUとは演劇性から舞踏にどのように変身するか? 変身が書かれた時代の部屋は? 着ていた衣裳はどのようなものであったか? など、日本に住んで想像するのではなくその時代オーストリアに住んだとき、どのようにサムザの目に映っていたのか知りたくて、資料集めに協力してもらいながら1ヶ月かけて作品づくりに取り組みました。

●共同作業として特にやりにくかった点はなにかあったのですか?

山本一あります、進行の途中で作品について何度も話し合うことになりましたので、英語の通訳役の鈴木は大変苦労しましたね。「文化の違い」ということには逃げないで一つの作品を作り上げるという作業をまとめる苦労を鈴木が一番負ったのではないかと思います。

あとは、ハッキリとした技術は伝えやすいが、曖昧なものが伝えづらいのでハッキリ考えさせるようにしなければいけなかったことでしょうか。ステップアップするために、前作よりはASOUのメンバーがより内面から表現する事を重視しました。

TINY ALICE / NPO ARC

新宿区新宿2-13-6 光至ビルB1 tel/fax 03-3354-7307
http://www.tinyalice.net tokyo@tinyalice.ne.jp

8/1(月)~8/3(水) ■ROBERT YAMADA NONSENSE THEATRE vol.5 「煙草の煙が目にしみる」 042-727-8640 http://www.geocities.jp/office_mube

☆作・演出=出演=ロバート山田

8/5(金)~8/8(月) ■フランクサバゲリア

ぼくらの世界陸産名作シリーズ①「まやかしトットちゃん」

090-9670-0415 franksabba@hotmail.com

☆作・演出=エド・W・ガニエスタ ☆出演=安倍川モトコ 錦田

エンキチ 寺西麻利子 嶋野悠気 吉田雅治 石本真一朗(やまびこトリア) ◎少女の欲求が魔法使いトットちゃんというアンチヒーローを誕生させた。おもしろい! おぼけ!

8/11(木)~8/14(日) ■ゴキブリコンピナート

「君のオリモノはレモンの匂い」 03-3382-3284

ando_hiyashinsu@ybb.ne.jp ☆作・演出=Dr.エクアドル

☆出演=ボボジロ眞族 オクス吉祥寺 OJC セトニチ彌子

Dr.エクアドル スピロ平太 スガ死顔 ◎キケン、キタナイ、キツイの3Kミュージカル。覚悟を決めてご覧あれ。

8/16(火)~8/18(木) ■東京黙劇ユニットKANIKAMA

「collection vol.2」 03-3382-0019(小島) ☆演出=吉

澤輝一 ☆出演=小島屋万助 本多愛也 ◎カニかまほこは、

おいしい。けれども、フェイクです。二人のパンタイムはその上をゆく超特大のフェイクなのだ。ぞうげ期待。

8/20(土)~8/21(日) ■演劇人集団☆河童塾

「ディープ・フォレスト」052-805-4623 backcountry19

91@yahoo.co.jp ☆作・演出=加藤真人 ☆出演=坂本大作

長野史 青木一 高橋幸哉 馬場園人 堀江晋子 米元健

一 井上雪(劇団演業) ◎多くの謎を残した事件をモチーフに描く、樹海での数日間。事件の真相、ならびに、生命(いのち)や人の生き方について、問うて行く...

8/23(火)~8/29(月) ■SPARKプロデュース/セレンdipi

てん公演 「アリス、オキナワ」 03-6418-5963

entertainment@humansky.co.jp ☆作・演出=入江崇史

☆出演=渡辺江里子 ほか ◎突然姿を消した夫の足跡を追ってオキナワの小さな島へやって来たアリス。ゆっくりと流れる時間の中で人生最大の転機を迎え、やがて新しい自分の道を歩み出す人々の姿を、映像と舞台のコラボレーションを通して描くヒューマンコメディ。作・演出=入江崇史(テ

アトル・エコー)。映像監督に、谷村香織。主人公アリスには、天性のコメディエイズこと渡辺江里子(ヒューマンズカイ)。

神楽坂 die pratze

〒162-0812 新宿区西五軒町2-12 T&F 03-3235-7990

7/12(火)~8/31(水) die pratze dance festival

「ダンスがみたい!7-批評家推薦シリーズ」

「ダンスがみたい!7 インターナショナル ダンス コレクション」

●今回「ダンスがみたい!7」は「インターナショナル ダンス コレクション シリーズ」批評家推薦シリーズの2つのプログラムに別れています。(チケット料金、予約などは共通です) ★料金(学生は要学生証)…前売券=¥2,500(学生=¥2,000)当日=¥3,000(学生=¥2,500)ノダンスがみたい!

お得なチケット通し券=¥18,000(学生=¥15,000)月5回券=¥9,000(学生=¥7,000)。(インターナショナル ダンス コレクション、批評家推薦、両シリーズで使えます。)演目について

1回有効、die pratzeのみで発売) ★チケット予約…チケットぴあ0570-02-9999 神楽坂die pratze 03-3235-7990

(火曜を除く13:30~18:30) 麻布die pratze 03-5545-1385(月曜を除く18:00~23:00) pratze@ask.ne.jp

主催…「ダンスがみたい!」実行委員会 共催…die pratze

◎ダンスがみたい!7-インターナショナル ダンス コラボレ

ーショー

■Dance Garop VIBE(韓国/日本) 8/2(火) 19:30

(*アフタートーク) 8/3(水) 19:30 「愚を数える」

☆振付=キム・ヒジン ☆出演=ソン・ソングン ユ・ジユヒョン

キム・ソングン チョン・インファ チョン・ソニイ 他

☆ゲスト出演=イシデタクヤ(8/2) 神村恵(8/3)

■若衆とその仲間達-日韓共同舞台制作-(韓国/セルビア/スペイン/日本/他) 8/12(金) 19:30(*アフタートーク有)

8/13(土) 15:30&19:30 8/14(日) 14:30&17:30

8/15(月) 19:30 「道るべの傍らに」/「Black Map」

(などの小作品集) ※日替りて3つの演目の組合せ

☆出演=鶴山欣也 聖境 陽茂弥 板垣あすか Shinichi

Momo Koga MORIO(ctr.) goboujin(lap top) キム・

ヨンチョル アナ・ボジッチ ルカス・レドンド 他

■玉野眞市と幻の軍団(USA/日本) 8/17(水) 19:30(*

アフタートーク有) 8/18(木) 19:30 「舞踏ってなあに?」

出演=玉野眞市 Ronny Baker 他 協力=宮下省代

■ボクロー(オーストラリア/日本) 8/25(木) 19:30(*

アフタートーク有) 8/26(金) 19:30 8/27(土) 15:30

&19:30 8/28(日) 15:00 「chocolate」/「ボクデス

の「メカネデス!」 「chocolate」…☆振付・出演=矢内原美

邦 ☆出演=佐川智香 「ボクデスの「メカネデス!」」…☆作・

演出・出演=小浜正寛 ☆映像=高橋啓祐 ☆ゲスト出演=

Luke Geoge

ダンスがみたい!7-批評家推薦シリーズ

■新人シリーズ3(批評家賞)受賞 アダチマミ×無所属へル

り 8/8(月) 19:30(*アフタートーク有) 8/9(火) 19:

30 「まな板の泳ぎかた」 問=nonpartizan_perry@yahoo

.co.jp ☆振付・演出・出演=アダチマミ ☆出演=植松侑子

岸原奈美 山口由香 ジョフィーヌ 他

■新人シリーズ3(オーディエンス賞)受賞 佐藤蓮代

8/11(木) 19:30(*アフタートーク有)

「ノ・ダンス・ワークス」 ☆問=michsato@cba.at.ne.jp

☆出演=佐藤蓮代 ☆朗読=吉野美奈子

■原田伸雄と舞踏青龍會 8/29(月) 19:30(原田伸雄ソロ)

8/30(火) 19:30(群舞) (*両日アフタートーク有)

※8/30(火) 13:30~16:30にワークショップを行います。

参加料¥2000,die pratzeで予約受付 | 原田伸雄ソロ

私の身体は戦場である! | 群舞 進り水 | ☆出演=原田伸

雄 藤原憲治 松岡涼子 松岡智恵 塚紫 泉真美子 ☆推薦

人=村岡秀亮

各詳細はhttp://www.geocities.jp/azabubu/ まで

一般の公演 フェスティバルとは関係ありません

8/5(金)~8/7(日) ■うたたねの森

「Capture me」 問=090-1058-3947 ☆作・演出・出

演=森谷由希子 ☆出演=寺岡泉美 石橋英明 二面由希

澤田よしみ 中秋美幸 他 ◎捕まえてごらん…調子よく

逃げてはみた。でもうしろが気になって仕方ない。あの人が

追いかけてくれる気がしてニヤニヤする。近づきたいから逃

げる人々の話。

8/20(土)~8/21(日) ■超絶劇団

「第25回公演 利休大爆発」 問=090-1782-7313

☆作・演出・出演=うるけん一郎太 ☆出演=くるっぴつこ

魚人ごころ ハル美 渡辺拓介 池ヶ谷響 オマンキー

ジュッティ(ゴキブリコンピナート) ◎千利休が大爆発。なぜ

千利休が爆発するのか。千利休が爆発するのか。爆発が千利休

なのか。千利休でないと爆発しないのか。爆発する事自体

千利休なのか。

9/2(金)~9/4(日) ■ノアノモチャバコ

「はちみつ蝮日記」 問=090-6528-1371 ☆作・演出=

寺戸隆之 ☆出演=松倉かおり 青木亜希子 上野智久

山森弘毅 伊藤あすか ◎「どこにでもあること」が平凡なら

特別どこにあるのだろうか?ダカラ彼女ハ僕ノマエカラ去

ッテイッ。ノアノモチャバコが贈る大人のお伽話、決定版!

麻布 die pratze

〒106-0044 港区東麻布1-26-6 2F T&F03-5545-1385

◎ダンスがみたい!7-インターナショナル ダンス コラボレ

ーション

■BIMO DANCE THEATER Jogjakarta+曾我傑(インドネシア/日本) 8/7(日) 17:00

8/8(月) 19:30 「FATAMORGHANA-ファタモルガナ」

~Diantara ada dan tiada ある(有る)とな(無)いのあ

いだ ☆振付=Bimo Wiwohatmo

☆出演=Bimo Wiwohatmo Besar Widodo

Anter Asmoloteg Eko Purnomo Lena Guslina

問=M-SOGA@ag8.mopera.ne.jp(曾我)

■ビエール・ダルト+イマージュオペラ>>>ロマネスク<<(フランス/日本) 8/10(水) 19:30(*アフタートーク有)

8/11(木) 15:30 & 19:30 「ザンベラ ZAMBINEPRA」

問=03-5373-0536(イマージュオペラ) ☆言語素材=オ

ノ・ド・バルザック ☆振付・演出=ビエール・ダルト+脇川海

里 ☆構成=綾原江里 ☆出演=ビエール・ダルト JOU (as

guest) 脇川海里 相良ゆみ 野沢英代

■金沢舞踏館/Theater ASOU(オーストリア/日本)

…詳細は上記事項参照

◎ダンスがみたい!7-批評家推薦シリーズ

■大橋可也&ダンスーズ 8/2(火) 19:30 *アフタートーク有

「サクリファイス」 問=070-5218-5251

☆振付=大橋可也 ☆出演=ミウウ 江夏令奈 関かおり

垣内由香里 青木正純 ☆推薦人=石井達朗(舞踊批評)

■和栗由紀夫+上杉真代 8/4(木) 19:30 *アフタートーク

有 8/5(金) 19:30 「神鏡の輝」 問=042-580-6152

☆出演=和栗由紀夫 上杉真代 曾我傑 ☆推薦人=志賀信

夫(ダンス批評)

■牙子&牙子だんさーず 8/13(土) 19:30(*アフター

トーク有) 8/14(日) 14:30 & 17:30

「Veil」 「Lexell's Comet」 「スミレの花をあなたに」 他

問=046-2713-1324(青木) ☆出演=鈴木麻依子 北島米

高根朝子 櫻井マリ 牙子 オカムラ(ギタリスト) 他 ☆推薦

人=吉田悠樹彦(舞踊学/舞踊批評)

■金魚 King 8/16(水) 19:30(*アフタートーク有)

8/17(水) 19:30 「ミルク」 問=kingyocafesuzul@

yahoo.co.jp ☆振付・演出=鈴木ユキオ ☆出演=King 皇

や ☆協力=にしがち創造舎 ☆推薦人=武藤大祐(美学

/ダンス批評)

一般の公演 フェスティバルとは関係ありません

8/19(金)~8/21(日) ■MEGALO THEATRE

「メガロポリストウキョウ」 問=045-341-2446(OFFICE

MEGALO) ☆作=メガロシアター ☆演出=今井尊也 ☆

出演=吉松寛 渋谷大樹 清原舞子 藤園明希 崎崎洋 高

山昌三 他 ◎巨大都市トウキョウの虚像とその下に暮らす人々の

生のリアリティを極限まで追求したメガロポリスシリーズ最終章!

新しい演劇! 詳細はwww.megalo.biz

8/24(水)~8/28(日) ■練内工房+龍昇企画 共同公演

「女中たち」 問=03-5272-4393(S・T・S) ☆作=ジャン

ジュネ ☆訳=渡辺守章 ☆演出=岡本肇 ☆出演=猪股俊

明 直井おさむ 苗田手一郎 龍昇 山本政保 ◎5人の個

性的な男優達による、ジュネの名作「女中たち」-岡本章の

斬新な演出のもと、関係の倒錯が暴き出されるヤバイ劇空

間!! 必見です。

9/3(土)&9/4(日) ■INSECTA LAB.

「図鑑vol.5」 問=03-5606-8766(インセクタ・ラボ)

☆構成・演出=野口暁 ☆振付・演出=桂田真子 香麗美里

中島屋子 山口聖美 野口暁 ◎暗闇に翔んでいく虫の羽。

バタバタ、サカサカ、フーン。グラフィック/ダンス/ノエーション。軌跡が描くダンス地図のユートピア。